

皆さん、おはようございます。早いもので新年度が始まって1か月が経ち、5月になりました。学校を囲む山々の新緑も輝き、本当にすがすがしい季節になりました。1年生の皆さんは、学校に慣れたでしょうか。少しの大変さを感じながらも、仲間と共に楽しく学校生活を送っていることと思います。

とは言え、今、新型コロナウイルスの感染状況は、まだ、油断できない状況です。すでに、いくつかの学校行事が制限、縮小となりましたが、何とか工夫し、やれることをやる、という方向性で今年度は進めていきたいと思っています。引き続き、感染予防に努めながら、「マイナスをプラスに変える」という気概と知恵と協力によって、気持ちの上で負けることなく学校生活を充実させていきましょう。

さて、この前、その学校行事の一つである生徒総会が行われました。特に1年生はどのような感想を持ったでしょうか。「輝努挨拶で歴史を築け 國栃中」というスローガンのもと、生徒が輝き、努力し、明るい挨拶ができて、楽しい学校を目指すという思いが充分表れていた立派な総会であったと思います。改めて準備をし、運営した人たちにお礼を言いたいと思います。ありがとう。

私は自ら学校を良くしていこうと気持ちを一人ひとりに持ってほしいと言いましたが、皆さんが学校を良くしようと思った時、必要なこととは何でしょうか。会長からは、皆が気持ちよい挨拶ができるように挨拶運動をします、環境美化委員長からは「自問清掃」を心掛け、積極的に清掃に取り組もう、体育委員長は体育の集合などをしっかりしようとか、本当に大切なことを言ってくれているなあと感心しました。以前、私が本を読んで学んだことのある教育学者の森信三（しんぞう）先生、本名は（のぶぞう）が、組織を再建するために大切なことが3つあると言っていたことを思い出したのです。その3つとは「時を守り、場を清め、礼を正す」でした。「時を守り」とは、時間を守ること。「場を清め」とは掃除をすること。「礼を正す」とは挨拶すること、返事をきちんとすることです。いつも言われているあたり前のことですが、今一度この意味を考えてみたいと思います。

「時を守り」、時間を守るとは相手を尊重することであり、それによって自分自身の信用を積み重ねていくことです。

「場を清め」、掃除をすること、特に自問清掃をすることで「気づく人になれる」「心を磨く」「謙虚になれる」「感動の心を育む」「感謝の心が芽生える」。掃除をすることは、自分の心を磨き、広く、深く、豊かにしていくことにつながります。

「礼を正す」、挨拶をするということは、心を開いて相手に迫ることです。ですから、挨拶をすることで人間関係は良くなっていきます。返事も同じです。呼ばれたら大きな声で「はい」と返事することが大切です。

つまり、「時を守り、場を清め、礼を正す」とは、単に遅刻しないとか、清掃をするとかということだけではなく、人を大切にし、自分を高め、人との関係を良くしていくことなのです。

先輩たちが築いてきた伝統、その伝統を守るというのは、言われるからするのではなく、表面をまねるだけではなく、そこにある真の意味を考え、引き継ぎ、自ら動くことです。

國學院栃木中学校の皆さん全員が、自覚と誇りを持って生徒会長や各委員長が言っていたのと結局は同じこと、この3つのことを実践することで、集団としての力を高めていって下さい。もちろん日々の生活が基本ですが、これから自然体験学習、文化祭、体育祭などの行事において皆さんのその姿を見せてもらいたいと思います。期待しています。

最後に、話は変わりますが、皆さんの学年通信を読みました。皆、目標に向かって頑張るぞという熱い思いを持っている様子が伺えて嬉しく思いました。そこに一つだけ、言っておきたいこと、それは先ほどの森信三先生の言葉です。「いったん決心したことは必ずやり抜く人間になることです。例外を作ったらだめです。今日は、まあ疲れているからとか、昨夜はどうも睡眠不足だったからとか考えたら、もう駄目なんだ。できないというのは、本当にする気がないからです」。心の片隅に入れておいて下さい。